

さあ 地図を片手に いまの呉を歩いてみよう



きっと そこには あのころの呉がある

### 原作漫画のご紹介

漫画『この世界の片隅に』は2006～2009年に漫画アクション誌に掲載された作品です。昭和の初めの頃、広島で生まれ育ったすずさん(浦野すず)が、海軍の街・呉に暮らす周作(北條周作)のもとに嫁ぎ、新しい家族と街に少しずつ溶け込んでいく様子を描いています。当時の暮らしを丁寧に描き、しかも漫画表現上の新たな工夫が溢れていることが評価され、第13回文化庁メディア芸術祭優秀賞を受賞しました。また、2016年にはアニメーション映画化されました。



なお、このマップは、原作漫画とアニメーション映画を独自に分析して作成したものであり、原作者や映画製作者の見解を示すものではありません。

### おねがい

このマップでは観光地ではない住宅地を歩くルートも設定されています。また、多くの建物は通常非公開です。まちあるきにできる際には、無断で私有地に入らない、不用意にカメラを向けない、路上駐車しないなど、マナーを守ってお楽しみください。



# すずさんが暮らした呉をめぐる

## 江戸時代の呉はどんなところ？

そのむかし、呉浦と呼ばれたこの地には宮原村、和庄村、庄山田村、吉浦村など半農半漁の集落が広がり、干潟の南端あたりに呉町という小さな港町がありました。「くれ」とはこの地域を包む連峰「九嶺」がなまったものといわれますが定かではありません。江戸時代末期には呉湾の干潟を畑に変える開発も進み、いまの海岸線に近いところまでが陸地になっていたようです。作中ですずさんが何度も前を通る「三ツ蔵」は、庄山田村の庄屋さんだった澤原家の土蔵で、江戸時代のもので、海軍が来る前の呉を伝える、とても貴重な建物です。

## なぜ呉が海軍の軍港に？

明治初期、まだ発足したばかりの海軍は、島々に囲まれて攻撃されにくく、広い平地もある呉に注目し、横須賀に続く二つめの鎮守府(根拠地)を置くことを決めます。さっそく湾の東側が買収されて建設工事が始まり、1889年に海軍呉鎮守府が開港されます。鎮守府の隣に建設された造船所や兵器工場は、日清・日露戦争の影響もあって着々と拡張され、1903年に呉海軍工廠となります。呉海軍工廠は海軍の造船・兵器製造の中心となり、世界でも有数の巨大な工場となりました。今でも旧鎮守府庁舎、旧司令長官官舎、旧呉海軍工廠の建屋など、海軍関係の数多くの建物が残っています。

## 海軍が来て、呉はどう変わった？

まず、江戸時代の港町だった呉町が鎮守府建設のため消滅します。呉町の商人たちは川原石などに移住して、新たな商店街をつくりました。また、地域の氏神様である亀山神社も、海軍に押し出される形で入船山から現在地に移転となりました。こうして、のどかな農村・漁村だった呉は、外からやって来た工場労働者と軍関係者が多数を占める近代都市へと急激に姿を変えていきました。1902年には4町村が合併して呉市が誕生しています。海軍は呉の街づくりも主導します。畑が広がるだけだった平坦地に、まず眼鏡橋(海軍ゾーンの入口)から北に延びる道(本通)と、西に延びる道を作り、この二本の道路を軸に基盤の目状の街区を計画して、地主の協力を得ながら造成を進めていきました。この時に作られた道路網は今もあまり変わっていません。一方、平坦地を囲むように広がる斜面地では、家主が段々畑だった土地を借りて貸家を建て経営することが多く、あまり計画的でない方法で住宅地化が進んでいったようです。海軍自身は一部の将官向けを除いて住宅をほとんど建てておらず、軍人や工場労働者の多くはこういった民間の貸家に住むのが一般的でした。人口の増加に応じて都市インフラの建設も進みます。1903年に山陽線から分岐した呉線が開通し呉駅が開業、路面電車は広島より早い1909年に開業しています。市民向け水道は整備が遅れましたが1918

年に開通しました。また、三宅本店が「千福」ブランドで海軍向け需要を取り込み酒造メーカーに成長したり、セーラー万年筆が創業するなど、呉では民間の工場も発達していきます。

## すずさんが来た頃の呉はどうだった？

呉のまちの景気は海軍の動向に左右されました。艦艇の保有を制限していた軍縮条約が1936年に失効すると海軍は大幅な軍拡となり、海軍工廠はフル操業で人口も急増、呉は日本10大都市に匹敵する大都市へと成長しました。さらに戦時下では人口が40万人近くになって広島に迫る規模に膨れ上がります。東京から呉に直通する列車も走ったといえます。好感に包まれた街には料亭やレストラン、喫茶店、映画館、洋装店、ビリヤード場などが建ち並び、軍艦が入港すると水兵が上陸してくると大いににぎわい、本通から中通あたりが盛り場となりました。また、呉ではスポーツも盛んで、呉港中学校野球部が甲子園大会で優勝したほか、呉工廠の野球・サッカー・バレーボール部は全国的な強豪として知られていました。すずさんが見た呉は、東洋一の軍港都市として絶頂期を迎えた直後にあたります。呉が軍拡のもとで繁栄した時代は長くは続きませんでした。漫画や映画でも描かれたように、戦時の統制下で市民生活は徐々に困窮していき、空襲で壊滅的な被害を被るに至ったのです。平坦地の建物は空襲でほとんど失われましたが、斜面地の家々は焼失を免れ、今でも大正時代から昭和初期の建物を見ることが出来ます。また、平地であっても、入船山周辺や川原石あたりには昔の面影をとどめる建物が残っています。

## その後の呉はどうなった？

終戦後の呉は、戦災で市街地が失われ、海軍解体で職も失われたことで人口が急減するなど、苦境に陥ります。状況を打開するために旧軍港市転換法が制定され、旧海軍用地が民間企業へ転用されたことで徐々に復興が進みました。高度成長期には、呉の造船所から世界一の巨大タンカーが送り出されるなど、かつての呉工廠が誇った高い技術力が活かされました。また、旧海軍水道が全面的に呉市に移管され、下水道の建設も進むなど、市民生活は戦前期より改善された面も多くありました。また、旧鎮守府施設の多くは1954年に発足した海上自衛隊が引き継いでいます。呉は横須賀や佐世保と異なり、米軍の大規模な基地が置かれなかったため、旧軍港の雰囲気比較的残っているのも特徴です。

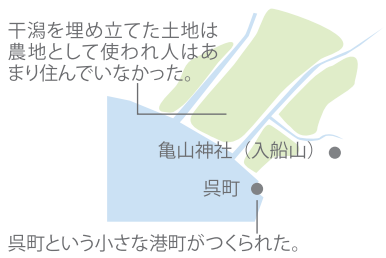
## 呉のグルメスポット

呉はカレーライスや肉じゃがが祥祥の地として知られています。いずれも旧海軍が水兵向けに考案した料理で、後に一般家庭に広まったものです。呉市内には当時のレシピを再現した店もあります。また、蔵本通りの屋台も呉の名物となっています。 ※横須賀発祥など、諸説あり。

## 16世紀の呉



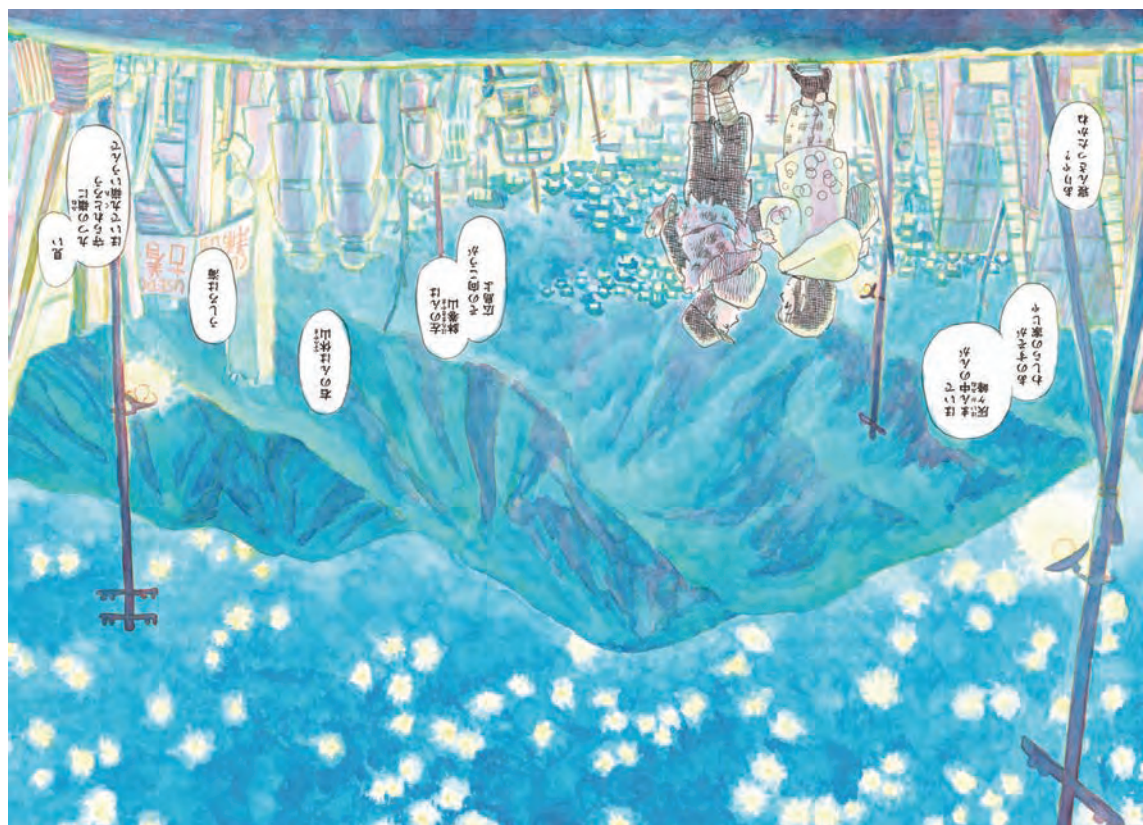
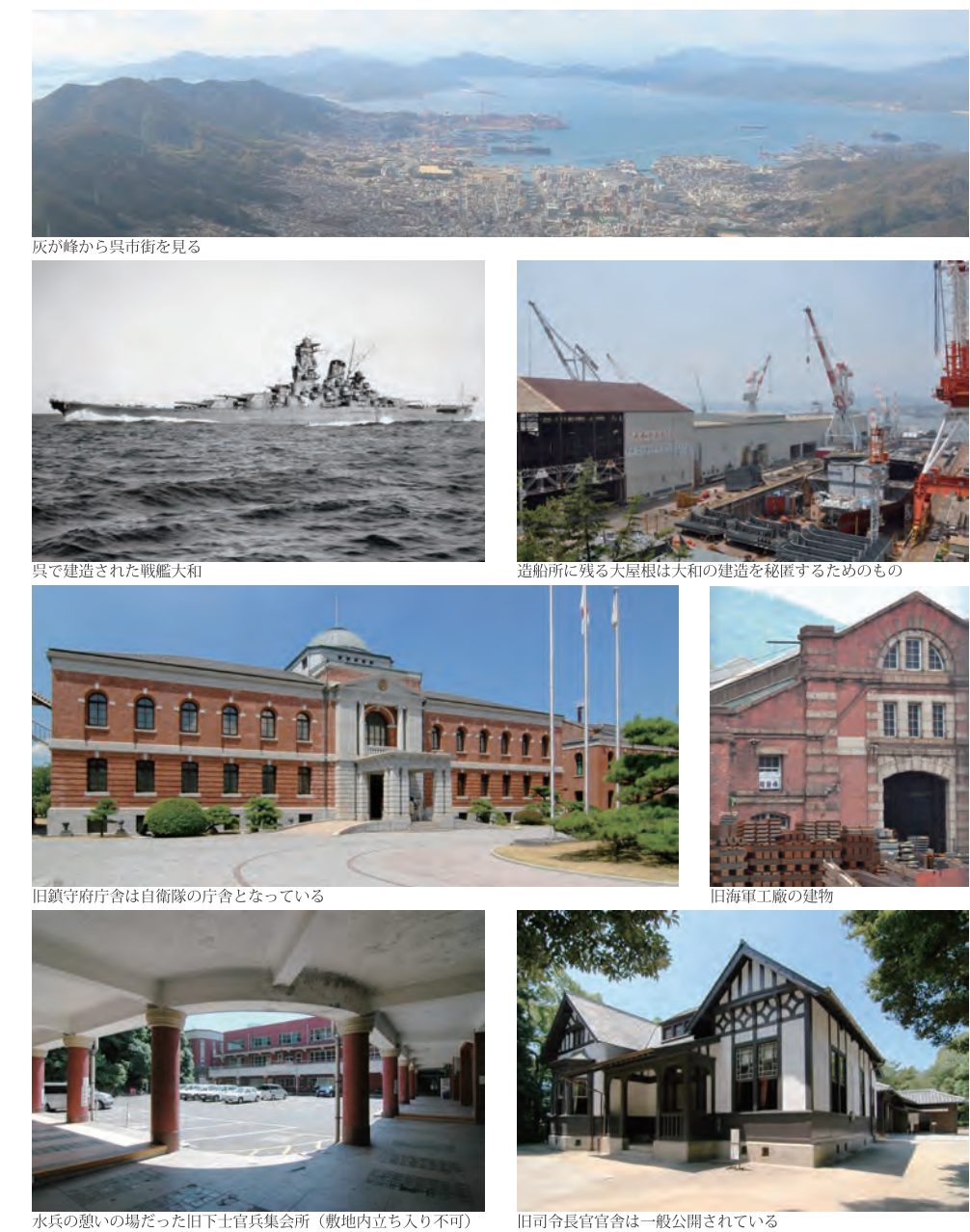
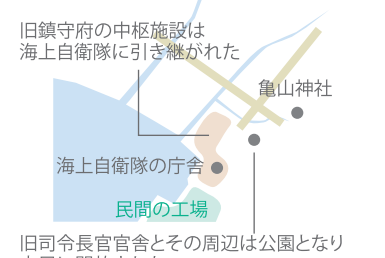
## 埋め立てが進む呉 (19世紀中ごろ)



## 海軍による都市建設 (19世紀末～20世紀前半)



## 戦後から現在 (20世紀後半以降)



## 呉への行きかた

「この世界の片隅に」では、広島から呉まで約30分、普通で約45分、10～30分間隔で走っています。SuicaやICOCAなどのIC乗車券も使えます。バス 広島バスセンターから呉方面に高速バス「クリアライン」が10～20分間隔で走っており、呉駅へは45分。IC乗車券の場合は乗車時と下車時にカードリーダーにタッチ。現金の場合は、乗車時に整理券を取って下車時に番号に記載された金額を払います。旅客船 広島港から船で行くのもおすすめ。約1時間ごとに運航しており、高速船(スーパージェット)は所要時間23分で2300円、フェリーは所要時間45分で1000円。呉港に寄港しない便もあるので注意。乗船券は港の窓口で買えます。

